



熊本県と接する鹿児島

県出水市。八代海に注ぐ

高尾野川では年3回、小

学生が魚捕りに夢中にな

る。昨年9月は、主催す

る「高尾野川をきれいに

する会」が取り付けた竹

籠に二ホンウナギが数匹

いた。ウナギを見て、触

れて、食べた子どもたち

は川の恵みを体感した。

「川がもたらす貴重な

資源を次世代に伝えたい

。危険という一言で川

は遠ざけられるから、子

どもたちは水に触れる本

当の楽しさも怖さも知ら

ない」

地元有志と「きれいに

する会」を立ち上げた、

## 環境教育

# 「元の川へ」願い活動

県内水面漁協連合会長の  
高崎正風さん(右)は「川  
の教室」の狙いをそう語  
る。子どもたちは目を輝  
かせ、予定の時間が過ぎ  
ても川から上がろうとし  
ないという。

32種に写真を付け「さか  
な凶鑑」を発刊、地元の  
小学校に配った。教材に  
してもらったのが目的だ。  
高崎さんの幼少時は、  
高尾野川は絶好の遊び場  
だった。ウナギが遡上  
(そじょう)し、田んぼ  
にも潜んでいた。196  
5(昭和40)年、防災ダ  
ムができ、その後の河川  
改修で環境は激変し漁獲  
量も大幅に減った。  
川幅が拡張され、水深  
が浅くなった分、水生生  
物は鳥の餌食になった。  
水の流れが弱まり、砂利  
は下流に運ばれなくな  
り、ウナギのすみかとな  
る自然のふちはできなく  
なった。「災害はなくな  
ったが、川魚への影響は  
全く考慮していなかつ  
た。川はいじらず、兩岸  
を築堤するなど方法はあ  
ったはずなのだ」

「昔の川を取り戻そ  
う」。昨年1月、川の  
上流と下流に、ウナギの  
すみかとなる石倉かごを  
設置した。3カ月に1回  
モニタリングし、保護増  
殖の効果を調べる。生物  
のすみかが皆無のコンク  
リート排水路にも類似の  
かごを取り付けた。「川  
の中に川をつくる」発想  
で九州大と共同でウナギ  
が遡上できない段差部分  
に試験的に魚道を整備す  
る計画もある。  
「できることは率先し  
て取り組みたい」という  
高崎さんは、活動が県全  
域に広がることを期待  
し、養鰻(ようまん)業  
者も川にもっと関心を持  
ってほしいと願う。

子どもたちにもウナギ  
が減っている状況を毎回  
伝える。「元の川に戻り、  
おいしい餌と水があれば、  
ウナギは戻ってくる」。そ  
う確信し、7月に予定す  
る石倉かごのモニタリン  
グには、子どもたちにも  
参加してもらう計画だ。  
(南日本新聞)



「高尾野川をきれいにする会」のメンバーと増水した川の様子を見守る高崎正風さん(手前)。子どもにウナギが豊かな川を伝えたいと願う＝鹿児島県出水市

### 【メモ】

高尾野川をきれいに  
する会 2013年5月、高  
尾野内水面漁協(高崎正  
風組合長)が中心とな  
り、高尾野小校区の自治  
会連合会、田舎料理研究  
会、地元の有志ら125人  
で発足した。小学生の魚  
捕り体験のほか、大型水  
槽に高尾野川の魚を泳が  
せる「移動水族館展示」、  
ウナギやナマズの「タッ  
チプール」、河川の清掃  
活動などを行っている。これら活動には国の水産多  
面的機能発揮対策事業を  
活用している。